

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475400808	事業の開始年月日	H18年3月1日	
		指定年月日	H18年3月1日	
法人名	日本ケア創造(株)			
事業所名	在宅サポートセンター生田 グループホーム響			
所在地	214-0039)			
	神奈川県川崎市多摩区栗谷4-6-13			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護		通い定員	名
自己評価作成日	R4年2月1日	評価結果 市町村受理日	宿泊定員	名
			定員計	9名
			ユニット数	1ユニット
			令和4年5月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアをして本人の持っている機能を維持し、健康面、安全を考慮し、楽しく生活して頂く。また、生活リハビリを取り入れた介護を実践し、車椅子の必要な状態になっても普通の浴槽で入浴でき、椅子に移乗してしっかりとした姿勢を保ち食事をするを大切にしている。住み慣れた場所で穏やかな最期を迎えられるよう、医師や看護師と連携をとりながら看取りケアをしている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和4年2月7日	評価機関 評価決定日	令和4年4月18日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずに調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、小田急線生田駅南口から徒歩約9分の、緑の豊かな生田緑地の閑静な住宅地に立地している。鉄骨造り2階建ての建物は、「在宅サポートセンター生田」という名称で、1階には同法人の運営する通所介護事業所がある。2階は「グループホーム響」と、介護保険外サービスの在宅老所で宿泊設備が2部屋設置されており、地域の高齢者の総合的なサポート拠点としての役割を担っている。</p> <p>【利用者の生活を元気にする、きめ細かなサービスの提供】 職員は、理念を実践し、利用者の生活における行動における生活リハビリと捉え、見守りを重視している。利用者は、洗濯物を干したり畳んだり、掃除をしたり、自分のペースで生活をしている。体操や階段昇降、フロアでの歩行など、下肢筋力の維持に努めている。</p> <p>食堂のテーブルや椅子は、利用者の高さにあったものを使用し、クッションや足置き台などで調整し、洗面台も、高さの調整ができるようになっている。出来る限り、車いすの利用者も椅子に移乗し、正しい姿勢で食事を取るよう努めている。利用者が普通の生活が送れるように、きめ細かな支援をしている。</p> <p>【人材育成と就業環境の整備】 キャリアパスを作成し、年2回、個別スキルアップシートをもとに人事考課面接を実施している。コロナ禍で外部研修は中止しているが、各種内部研修や資格手当の支給などがある。介護休暇や育児休暇の取得、短時間勤務制の導入のほか、持病のある職員には、勤務内容を考慮し、働きやすい環境を作っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	在宅サポートセンター生田
ユニット名	グループホーム響

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	●	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	●	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	●	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	●	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、理念を共有している。	「在宅サポートセンター生田」の理念を、事業所理念として、玄関などに掲示して、広く周知している。理念達成のための事業所の行動指針を定め、管理者は、生活リハビリを通して、利用者の生活を元気にするための支援を重視している。職員は、管理者の意向を受けて、利用者の「生き生き暮らし」を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。敬老の日にお菓子を頂いている。	栗谷町内会に加入している。コロナ禍以前は、町内会の夏祭りなどに招待されたり、事業所の駐車場で、運営推進会議のメンバーを招待してバーベキュー大会などを行っていた。コロナ禍で、なかなか出来ないが、近くを散歩する際には、近所の方と挨拶を交わしている。敬老の日には、お祝いのお菓子を町内会から頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで行えていない。1回文章で通知する。	コロナ禍以前は2ヶ月毎に開催していたが、本年度は、まだ1回文書開催をただけである。参加者は、家族代表、法人代表、センター長、管理者、看護師、地域包括支援センター職員、町内会副会長、近所の方などである。事業所の運営状況の報告や事故報告、情報交換などを行っている。報告書は、次回開催時に前回分として地域包括支援センター職員や出席した家族に、手渡している。	コロナ禍以前は、2ヶ月毎に開催していたが、本年度は、1回開催したのみです。書面による開催など、2ヶ月毎に開催されることを希望します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナで行えていない。	窓口は、多摩区高齢介護課で、要介護認定の申請や事故報告などを行っている。川崎市のオンラインによる各種研修や講習会に参加している。地域包括支援センターには、運営推進会議の報告書を渡している。生活保護受給者はいない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	拘束マニュアルを作成している。 転倒のリスクの高い方のベッドの横に、家族の許可を得てセンサーを設置している。	身体拘束防止について、運営規定に明記している。身体拘束等適正化検討委員会は3ヶ月毎に、センター長、管理者、看護師、事務長が出席して実施している。研修はマニュアル（身体拘束ゼロ作戦）を使用し、毎月の全職員参加のミーティングの中で行っている。管理者は、特にスピーチロックなどについて注意し、他事業所で起こった事例などについても確認している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成している。 ミーティングで伝えている。	高齢者虐待防止関連法などについて、毎月のミーティングで、身体拘束防止の研修と同時に実施している。虐待に該当するような、疑わしい行為があった場合には、迅速に管理者、センター長に報告が上がるようになっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、読みながら説明してその都度質問に答えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。 家族がスタッフに何かを伝えた時、フォロー出来るようにしている。	コロナ禍で、基本的には面会を中止しているが、収まっていた期間、短時間の面会を、マスク着用・ソーシャルディスタンス確保・消毒などの感染防止対策をして、1階の相談室で実施した。「生き生きひびき」を毎月発行して、利用者の状況を家族に報告している。利用者の意見や要望は、日々の支援の中で把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングや、年2回の全体会議をしている。	毎月1回、非常勤職員も含めた全職員参加のミーティングを実施し、意見や要望を把握している。朝夕の引継ぎ時や、日々の支援の中で、管理者は要望などを聞くように努めている。法人の全職員が参加する全体会議が、年2回、4月10日と10月10日に開催され、経営全般の情報提供がある。毎月のミーティングでは職員から個別の支援についての要望や、物品購入などの提案があり、対応している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回考課表を作成し、個別評価して給与、賞与の査定をしている。介護休業の取得や、育児休暇、時間短縮勤務の制度あり。疾病のあるスタッフには勤務内容を考慮している。	社員の出勤は、出勤簿で管理している。法人がキャリアパスを作成して、年2回、「個別スキルアップシート」を使用して、人事考課面接を実施し、職員の努力の成果を確認している。介護休業や育児休暇の取得、短時間勤務制の導入のほか、持病のある職員には、勤務内容を考慮し、夜勤勤務者は年2回の健康診断の実施など、働きやすい環境作りに努めている。介護福祉士などの資格を取得した場合には、資格手当を支給している。休憩室があり、職員は気分転換できる場所がある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナで行えていない。	職員の習熟度に応じた育成プランを作成している。コロナ禍以前は、外部の研修などに参加していた。事業所の研修は、毎月のミーティングの中で行っている。研修は非常勤職員も含めた、全職員が対象となっている。新人研修は、センター長が座学研修を行い、ベテラン職員がOJTで指導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナで行えていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、本人の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に際してできるだけ説明をすると同時に、今までの生活や思い、希望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学の際、他のサービスの情報等は伝えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はお願いしやってみよう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診をお願いしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人が来やすい環境作りに努め、テーブル・椅子を配置し、居室で食事が摂れるように配置している。	コロナ禍で、友人知人の訪問は中止している。電話の取次ぎや手紙の投函などを手伝っている。今までの生活習慣を継続するために、新聞を読み続けている利用者や、洗濯物を干したり畳んだり、掃除をしたり、今まで行っていた家事の仕事を継続する利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファを配置したり、座席に配慮する。 また、スタッフが間に入り、入居者同士が関わられるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、家族の相談や、家族の近所の人との相談があり、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時アセスメントを行う。	アセスメントや日常の支援の中で、利用者の意向を把握している。意向の把握が困難な利用者には、表情やしぐさなどから把握するように努めている。家族から聞くこともある。把握した内容については、「申し送りノート」や「介護記録」に記入して、職員間で共有し、介護計画に反映させることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人、家族に伺い、その都度関わりを相談しながら対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングで共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と相談し、サービス計画書を作成している。日々の関わりの中で出来る限り本人の状況把握に努め、月1回のミーティングで共有している。	自宅や病院などで、アセスメントを実施し、入居前に初回介護計画を作成している。利用者の状況を見て、入居後3ヶ月程度で改めて介護計画を作成している。6ヶ月毎に更新し、変化がある場合は、その都度見直している。医師の情報は、訪問診療時に記入された「受診記録」などを参考にして、介護計画に反映させている。毎月のミーティングの中で、ケースカンファレンスを実施し、職員の意見などを把握して、計画作成担当者が、作成している。介護計画は全職員が見られるようになっており、ミーティングで介護計画通りに日常の支援が行われているか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を日勤・夜勤者がしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家人がいけない時は、受診の対応をしている。家人との外出時には、支度をしたり、必要な持ち物の準備をする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診・訪問歯科の利用をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との連携を可能な限りとっている。	法人社長の内科医が、協力医を務めており、4名が月1回の訪問診療を受診している。他の利用者は、今までのかかりつけ医の訪問診療を受けている。車の運転で、職員が同行することもある。協力医とは24時間連絡が取れる体制になっている。訪問診療時には、看護師が立ち会っている。看護師は、センター内におり、利用者の健康管理をして、状況を「看護記録」に記入している。訪問歯科医を利用している利用者が1名で、月1回の訪問診療がある。薬の管理は、看護師が行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況や変化について日中のうちに伝える。看護師は日誌の記入をして、看護師全員で把握に努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前、退院時に病院関係者より直接情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に説明する。 状態変化時に家族の意志確認をしている。	契約時に「看取り介護に関する指針」を説明している。医師が終末期と判断した場合には、主治医・看護師・管理者・センター長が家族と話し合い、家族が看取りを希望した場合には「終末期医療と看取り介護に関する同意書」「グループホーム響が行う看取り介護に関する同意書」を取り交している。研修は、センター長が行っている。今年2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加するなど急変時に対応出来るようにしている。 連携体制など、月1回のミーティングで共有している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の衣類を準備し、食料、飲料水を3日分備蓄している。 全体会議で、確認している。	年2回の避難訓練を実施している。全職員が参加して、夜間を想定した訓練も実施している。地域の避難訓練に事業所の職員は参加しておらず、事業所の避難訓練に地域の方の参加もない。備蓄は通所介護事業所職員分も含めて、食料品や飲料水などを3日分確保している。簡易トイレ、消耗品、毛布、卓上コンロ、ガスボンベなどリストに基づいて管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声掛けをしている。	利用者を、人生の先輩として敬い、言葉遣いには注意している。利用者の苗字をさん付けで呼ぶようにしている。リビングなどで行うミーティングでは、利用者名はすべてイニシャルトークにしている。特にトイレ誘導時には、小声で周囲に気付かれないようにしている。トイレ内には、利用者の羞恥心に配慮して、タオルやバケツ、個人別のリハビリパンツやパッド、オムツなどを用意している。個人情報を含む書類は、鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	動作で理解し、「どうしましたか」と尋ね、できるだけ本人の意思で行動してもらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	眠い時には食事、入浴の時間をずらす。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪カットを定期的に行っている。 衣類が汚れていたら着替える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きなど、出来る事はやってもらう。食事はスタッフも同席し、話をしながら食べる。	配食業者により、主菜と副菜が月曜日から土曜日までの昼食と夕食分、日曜日の夕食分が、配達されてくる。1階の通所介護事業所の厨房で温めて、配膳している。日曜日の昼食は、「リクエストメニューの日」として利用者の意向を把握し、好みのものを調理している。朝食、ご飯とみそ汁は、食材の調達から調理まで職員が、毎日行っている。誕生日には赤飯やチラシ寿司を作り、ケーキでお祝いをしている。クリスマスにはケーキ作り、正月はおせちを楽しんでいる。出前で寿司や、ピザを頼むこともある。とろみ食やきざみ食など、体調に応じた食形態にも対応している。テーブルや椅子は、利用者に応じて、高さにあったものを選び、クッションや足置き台などを使用して調整し、車いすの利用者も出来る限り、椅子に移乗して、正しい姿勢で食べるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取の把握をし、少ない方には声掛けや介助をしたり、形態を変え提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は食後洗浄し、定期的に義歯洗浄剤を使用する。自分で磨くことの出来ない方は介助し、スポンジで口腔内の汚れを取る。また、必要に応じてご家族と相談し歯科医につなげる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、できるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう誘導する。その方の機能に合わせてリハビリパンツや、パンツにパットをしている。	日中は布パンツで夜間はリハビリパンツやパッドを使用している利用者が2名で、他の利用者は、日中、夜間ともリハビリパンツとパッドを使用している。紙おむつを使用している利用者もいる。基本的には、排泄パターンを把握して、声掛けをして、トイレ誘導している。トイレ内には清拭用のお湯が入ったポットや替えのパッド類の入ったキャビネットが備えられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に、乳製品を取り入れたりココアを飲み、自然排便が出るようにする。困難な人は、看護師が下剤、調整剤をセットし飲んでもらう。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回を予定している。外出予定がある日は前日に入るようにしている。眠気がある時は1度寝てから入ったり、食後はすぐに入らず、食休みしてから入るようにしている。	入浴は、原則週3回、時間帯は利用者の希望に出来る限り対応するように努めている。同性介助を希望する利用者はいない。季節の菖蒲湯やゆず湯などを楽しむことがある。入浴剤は使用していない。浴室は大きなヒーターが、脱衣所にはエアコンが設置されて、ヒートショック対策がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠い方は朝ゆっくり起きられるようにしている。傾眠時、浴後疲れている時にはベッドで休んでもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を薬ケース横にファイルし、変更については申し送りノートに記入する。分包セットは看護師が行う、服薬時に本人に氏名、日時を確認し、飲み込んだ確認を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、レクリエーションをしたり、生活を生かした手伝いをしてもらう。散歩や階段昇降などの歩行訓練、施設内行事を行う。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで行えていない。	出来る限り、近くを散歩するように努めているが、コロナ禍で、思うようにできていない。駐車場で外気浴を楽しむこともある。近場に車で花見や紅葉狩りに出かけ、車窓から眺めたり、人がいない場合には車から降りて楽しんでいる。コロナ禍で、外出がしにくいので生活リハビリを大切に考え、室内での体操や歩行、階段昇降で下肢筋力の維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を財布に入れ、持っている方はいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、手紙を渡している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行い、季節感を出している。また、衛生面に配慮し、心地よく生活できるようにしている。	リビングは、天井が高く、広々として、天窓があり、明るい光が差し込んでいる。換気には十分注意して、加湿器や空気清浄機が設置されている。清掃は出来る利用者と職員が毎日2回、業者によるワックス掛けが年1回実施されている。畳2畳分のコーナーが2ヶ所あり、利用者は洗濯物を畳んだり、体操をしたり、昼寝をしたりと自由に使っている。ソファがあり、利用者はゆったり過ごすことができる。壁には行事の写真や職員が順番で手作りしたカレンダーが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳台やソファを設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台、キャビネット以外の物は使い慣れた物を使用している。	居室は、エアコン、照明器具、キャビネット、高さの調整できる洗面台が設置されている。利用者は、使い慣れた家具や、調度品、冷蔵庫、テレビなどを持ち込んでいる。自分で作った作品を部屋に飾っている利用者もいる。換気は利用者が不在の場合には、窓を開放している。清掃は、出来る利用者と職員が行い、季節の衣替えは、職員が実施している。表札は職員が作成したもので、大きく分かりやすく、書かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	テーブルや椅子をその人に合った状態にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

在宅サポートセンター生田
グループホーム

作成日

R4年 5月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍の為運営推進会議の実施をしていない。	書面による周知を行う	報告に向けて内容をまとめ書面作成。郵送。	半年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。